

東京医科大学看護専門学校紀要に思いを寄せて —紀要投稿にチャレンジしての学びと今後の抱負—

杏林大学保健医療学部看護学科 教授
元専任教員 山本 君子

この度、東京医科大学看護専門学校紀要最終号に拙稿を掲載させて頂けますことを大変光栄に思います。

私は、東京医科大学看護専門学校で多くの諸先生方にご指導を賜り、紀要への投稿にチャレンジすることができました。はじめてチャレンジ致しました紀要は、第12巻「本校の看護研究の授業概要」というタイトルで井澤和代先生、天野雅美先生との共同執筆でした。その後は、基礎看護学の看護方法論Ⅱを担当していたこともあり、授業に関連する「医療事故に対する看護学生の意識」など投稿させて頂きました。チャレンジできたのは、諸先生方のご指導によるものだと思っております。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

さらに、数年間紀要編集委員の役割を頂き、紀要発刊20周年の2010（平成22）年に、節目となる記念号発刊を担当致しました。特別寄稿は、東京医科大学学長、看護部長、元教務主任、査読者の大学教授など7名の諸先生方から頂きました。その内容は、紀要の発刊に至るまでの思いや経緯、ご苦労された出来事などでした。特に印象深い内容は、元教務主任でありました黒坂知子先生の玉稿です。その一節に「紀要1巻は、1990年6月発刊であり、看護専門学校で紀要を発刊している学校は殆どなく、先駆者的な試みだった…看護研究に対する苦手意識があったが毎年投稿することで研究に対する力が付いてきた。継続は力なりです」と論じておられました。私も、日々多忙な業務の中でも紀要投稿にチャレンジできたことは、大学院への進学を志すきっかけとなり、多くの事を学ぶことが出来、成長する機会に恵まれたと感謝しております。

現在私は、東京医科大学看護専門学校を退職しましてから、保健学部看護学科で基礎看護学領域を担当しております。基礎看護学は専門看護学の各分野に共通した基本的知識および基礎的能力としての基本技術や倫理的側面について教授しますが、東京医科大学看護専門学校の諸先生方と共にこれまで培ってきました教育力を活かし、学生とともに今後も学び続けたいと考えております。

看護研究においては、“その人らしさ”という言葉テーマにし、定義がなく曖昧さを含む“その人らしさ”を看護・介護職はどのように捉えているのかを明らかにしたいと取り組んでおります。

東京医科大学看護専門学校の諸先生方には今後とも、ご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。